

## 第 21 回シンポジウム「高齢社会を共に生きる」の実践報告要旨

### [実践報告]

#### 「認知症高齢者が『地域と共にある』暮らしのシステムの構築」

##### —小規模・多世代・福祉間交流により関係が変わる—

大久保 幸積（幸清会理事長）

私たちは地域の人々との関わりの中で人生と暮らしを築いている。それだけに住み慣れた地域には、その人にとって多くの物語が凝縮されている。認知症になっても安心できる暮らしを継続するためには、環境が及ぼす影響が大きいと考え、環境の側面を重視した小規模・多世代・福祉間交流の活動を展開してきた。具体的には「地域高齢者支援センターの開設」や「認知症サポーターの育成」「中学校跡校舎を活用した地域福祉活動」等を展開している。

（施設所在地）北海道虻田郡豊浦町字大岸 1 5 1 - 2

#### 「自分たちのまちは自分たちで創る」

##### —住民主体による地域福祉の推進基盤の形成とコミュニティソーシャル

ワーカー

小池 幸夫（茅野市社会福祉協議会事務局長）

平成 18 年の介護保険改正で導入された地域包括支援センターを先取りした保健福祉サービスセンターの取り組みとして、コミュニティソーシャルワーカーが戸別訪問活動によってニーズを掘り起こし、それに基づく個別支援活動を展開してきた。具体的活動内容は、「家族関係の調整」「ソーシャルサポートネットワークづくり」「セルフヘルプグループづくりの支援」「地域での孤立防止」「セーフティネットの構築」等多岐に亘る。

（所在地）長野県茅野市塚原 2 - 5 - 4 5

#### 「高齢社会における地域生活支援コミュニティづくり推進事業」

##### —ゆいま〜る(相互扶助)の再構築—

川上 幸夫（浦添市社会福祉協議会会長）

高齢者が、生活拠点である地域社会の一員として役割を持ち、「長生きして良かった」と感じるような環境を整備し、全ての地域住民が安心して生活を送ることができる地域づくりを推進してきた。具体的には、「地域づくり推進員の育成」や「高齢者と子どもの居場所づくり」、「要支援者の地域ケア体制づくり」等を計画的に実施。助成事業を通して、住民が地域の支え合いづくり等の大切さを実感するようになった。

（所在地）沖縄県浦添市仲間 1—10—7